



2019年3月19日

市民参加型オンラインプロジェクト「みんなで翻刻」

東京大学地震研究所蔵の古文書のうち 495 点をすべて解読！

京 都 大 学
東 京 大 学
国立歴史民俗博物館

2017年1月に開始した、市民参加型の地震史料翻刻プロジェクト「みんなで翻刻」(※1)において、東京大学地震研究所図書室(※2)が所蔵する古文書の解読に取り組んでおりました。このたび登録済のすべての史料について「翻刻完了」(※3)の状態になりました。市民と研究者とがともに参加するオンラインでの翻刻作業で、今回のようにまとまった量の史料の解読を完了したのは初めてです。

今回の成果

- 対象：東京大学地震研究所図書室が所蔵する資料のうち「古文書」に分類され、デジタル画像が撮影されたもの 495 点のすべて
- 要した期間：約2年間（開始日 2017年1月10日）
- 参加登録者数：4626人（2019年3月5日現在、アカウント数） ※閲覧だけの人も含む
- 翻刻参加者数：約347人（2019年3月7日現在、アカウント数） ※実際に文字を入力した人
- 総入力文字数：465万文字（新書30～35冊分程度）

※1 みんなで翻刻 <https://honkoku.org/>

「翻刻」は、くずし字等で書かれている古文書を、一字ずつ現代文字に活字化する作業のこと。

※2 東京大学地震研究所図書室 <http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/tosho/>

※3 すべての文字が翻刻された状態。参加者の判断で「翻刻完了」にできる。

「みんなで翻刻」について

- オンラインでの市民参加型の歴史史料の翻刻プロジェクトです。
- 京都大学古地震研究会のメンバーを中心にシステムを開発・運用しています。
- 過去の地震の理解のために、大量に存在する史料を解読することを目的としています。
- 2017年1月にスタートし、現在も他所蔵機関の資料を追加しながら運用中です。
- ご参加いただいた方が古文書に親しみ、その解読の楽しみを知ることにも寄与しています。
- 地域の災害の歴史に目を向けたりすることにもつながっています。
- AIによって古文書を解読するための題材になる可能性も秘めています。

「みんなで翻刻」の主な機能と特徴

- 「まなぶ」 数多くのくずし字のパターンや、江戸時代の本から収集した熟語・約 3000 パターンを収録。くずし字学習支援アプリ KuLA (※4) と連携。
- 「翻刻する」 当初東京大学地震研究所所蔵「石本文庫」(※5) から約 114 点を収録し、その後 495 点まで増強。Wikipedia のように、多人数が同時に書き込める「ライブ」機能付き。
- 「つながる」 SNS 機能で写真や文章の投稿が可能。
- 史料をパラパラめくるように閲覧できます。

「みんなで翻刻」の現状と今後

- 他の資料館等の所蔵する史料も登録し、翻刻を続けています。
- 他所蔵機関の資料も含めて 499 点の史料を解読してきました。
- 総入力文字数は 500 万文字を越えています。
- IIIF (※6) という画像の相互利用のための国際規格に対応するなど、より使いやすいシステムを目指して改良中です。

※4 くずし字学習支援アプリ KuLA (大阪大学大学院文学研究科)

http://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/research/community/hodo/iikura_KuLA

※5 石本文庫は、第 2 代地震研究所所長の石本巳四雄 (いしもと みしお、1893-1940) が収集した災害関係のかわら版、鯉絵等のコレクションで、地震研究所と総合図書館に収蔵されています。

※6 IIIF (International Image Interoperability Framework、トリプルアイエフ) <https://iiif.io/>

なお、「みんなで翻刻」の開発と運用には、災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画、日本学術振興会 (JSPS) 科研費 JP15H02948、JP18K18338、東京大学地震研究所共同研究プログラム 2015-G-22「石本文庫の翻刻」ほか 3 件、および京都大学防災研究所一般共同研究 25G-01 の助成を受けています。

お問い合わせ先

中西一郎 (京都大学大学院理学研究科・教授／京都大学古地震研究会)

加納靖之 (東京大学地震研究所／地震火山史料連携研究機構・准教授／京都大学古地震研究会)

橋本雄太 (国立歴史民俗博物館・助教)

E-mail: support@honkoku.org (加納・橋本・中西)

TEL: 03-5841-5696

Twitter: @CloudHonkoku (「みんなで翻刻」のアカウント)

みんな

で

翻刻

【地震史料】

ENGLISH

地震史料を翻刻する

翻刻ガイドライン

史料一覧 (STAGE9)

史料一覧 (STAGE8)

史料一覧 (STAGE7)

史料一覧 (STAGE6)

史料一覧 (STAGE5)

史料一覧 (STAGE4)

史料一覧 (STAGE3)

史料一覧 (STAGE2)

史料一覧 (STAGE1)

★ お気に入り・作業履歴

フォーラム

くずし字解読を学ぶ

まなぶ

つながる

ライセンス/クレジット

地震年代記

難易度: 低

32/32コマの翻刻が完了

東京大学地震研究所図書室所蔵

石本文庫26 (1855)

貞観地震

元禄地震

宝永地震

島原大震

越後三条地震

無光寺地震

小田原地震

伊賀上野地震

安政江戸地震

東京

諸國地震年代記

難易度: 低

17/17コマの翻刻が完了

東京大学地震研究所図書室所蔵

石本文庫27

貞観地震

元禄地震

寛光寺地震

小田原地震

伊賀上野地震

安政南海地震

安政江戸地震

全国 (諸国)

本朝地震記 全

難易度: 低

20/20コマの翻刻が完了

東京大学地震研究所図書室所蔵

石本文庫28

元禄地震

宝永地震

越後三条地震

全国 (諸国)

大江戸 地震後教 人事改正 ...

難易度: 低

8/8コマの翻刻が完了

江戸 大地震末代噺の種 全

難易度: 低

17/17コマの翻刻が完了

安政息災記 全

難易度: 低

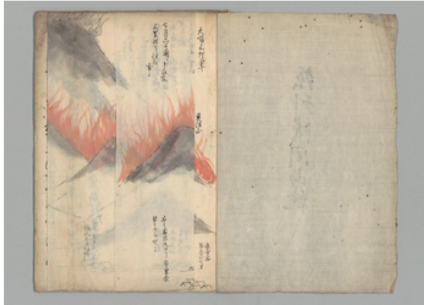
8/8コマの翻刻が完了

「みんなで翻刻」の画面の一例。「みんなで翻刻」では、各史料のすべてのページ翻刻の翻刻が終わると「翻刻完了」のスタンプが表示されます。

東京大学地震研究所図書室「石本文庫」

現在私達が目標にしているのは、
東京大学地震研究所図書室が所蔵する災害史料のコレクション
「石本文庫」の全史料を翻刻（文字起こし）することです。

石本文庫は、地震研の二代目所長石本巳四雄（1893-1940）が選した災害史料のコレクション。
現在は、東京大学地震研究所と東京大学附属図書室に収蔵されています。
一部資料はデジタル化され、インターネット上で閲覧することができます。
翻刻の進捗に合わせ、石本文庫以外からも順次史料を追加する予定です。



『信州浅間山焼』
東京大学地震研究所図書室所蔵



『諸国海辺地震津波書』
東京大学地震研究所図書室所蔵



『本朝地震記 全』
東京大学地震研究所図書室所蔵



『諸国地震年代記』
東京大学地震研究所図書室所蔵

[その他の史料も見る](#)

「みんなで翻刻」のトップページの説明の一部。2017年1月のプロジェクト公開時には東京大学地震研究所所蔵の「石本文庫」114点の翻刻を目標としていました。同年5月末には114冊の翻刻が完了し、その後追加した資料も含め、このたび495冊の翻刻が完了しました。